

中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の車内環境向上に向けた取り組みについて

●大分きゃんバス車内への無料Wi-Fi設置について

- ・本市では、無料Wi-Fiスポット「Onsen Oita Wi-Fi City」を、市の施設やまちなか等に設置している。

【設置目的】

- ・市民や外国人旅行者等の来街者の利便性向上
- ・情報発信力の強化
- ・災害時の活用



- ・現在（5/1時点）は、主要な観光地や防災拠点等 48 拠点到設置されている。

※「大分県立美術館」、「大分県総合文化センター」は、大分県が「Onsen Oita Wi-Fi」を提供。

- ・これまでは、Wi-Fiスポットの周辺でのみ利用可能だったが、きゃんバス内に設置することで、Wi-Fiに接続しながら、駅前広場や商店街から大分市美術館等の沿線施設の間を移動することが可能になる。

●本市の情報や沿線施設の紹介をする車内放送の導入について

- ・中心市街地の魅力を発信し、まちなかの回遊性を向上させるため、「大分きゃんバス」車内にて、「大分きゃんバス」の運行ルートの沿線施設（美術館や府内城跡など）や大分市の文化、歴史、産業について紹介する車内放送を開始しました。大分市の魅力を再発見してみてください。

【車内放送の一例】 オアシス広場前（県立美術館南）～大道校区公民館 区間

「戦国時代に活躍した英雄大友宗麟。サンフランシスコ・ザビエルとの出会いによってキリスト教を保護し、ポルトガルとの南蛮貿易を進め、九州6ヶ国を治めるなど、大友氏の最盛期を築きました。グローバルな視野をもち、現在の大分市を国際貿易都市として発展させました。南蛮文化発祥都市おおいたを象徴する戦国大名です。」

●「大分きゃんバス」優先席へのヘルプマーク標示について

「ヘルプマーク」とは、

障がいや疾患などがあることが外見からは分からない方が、援助や配慮を必要としていることを周囲に知らせることができるマーク

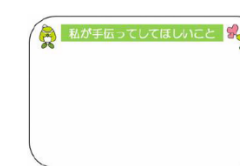


※平成24年に東京都で始まった「ヘルプマーク」の取り組みは、全国へと普及し、平成29年には、東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人観光客にもより分かりやすい「案内用図記号」として、「JIS（日本産業規格）」にも追加されている。

- ・本市においても、障がいのある方などが、災害時や日常生活の中で困ったときのために、必要な支援情報を記載しておくことができる「ヘルプカード」を、市報等で広報するほか、各支所等にカードと啓発用チラシを設置している。



カード(おもて面)



カード(うら面)

- ・「大分きゃんバス」の「優先席」に「ヘルプマーク」を標示することは、援助や配慮を必要としている方に有効な手段なので、「大分きゃんバス」で標示する。



援助が必要な方のマークです。
席をおゆずりください。

Please offer your seat to passengers
with medical conditions.